

第16回まちづくりフォーラム「図書館の役割とはなあに？」に参加してきました。主催されたのは、緑区東部まちづくりの会で、同会は緑区東部に支所が設置されることが明らかになってきた2004年に発足された団体で、この地域をどんな「まち」にしていくのかを住民の皆さんが自発的に学び、考え、提案されてこられました。地域を結びつける上で、文化的な施設がとても大切だと考え、当初は計画になかった図書館の設置を名古屋市に提案され、その提案が結実し出来たのが「徳重図書館」です。

そんな皆さんたちでしたので、今年5月に突然、新聞で報道された、徳重図書館を含めた支所管内図書館への指定管理者制度導入は、なぜ、突然に？という思いを持たれ、私たち労働組合、図書館職員や図書館ボランティアとともに「名古屋市図書館を考える市民・ボランティアの会」を立ち上げていただき、同会の代表には、まちづくりの会会長の増田さんに就任していただきました。

こうした取り組みで、図書館への指定管理者制度導入を止めることが出来ましたが、完全に撤回されたわけではないため、引き続き、図書館とはどういうもので、どうあるべきかを学びあい、その中から図書館に指定管理を導入することが是か非かを住民目線で考えていこうとされています。

その一環として、この日のフォーラムも開催されました。会のメンバーの方だけでなく、広く図書館をはじめとするボランティア団体の方たちや近隣市町村の図書館サポーターの方たち、そして図書館職員などにも声をかけられ、この日は43名の参加がありました。

会の方から、徳重図書館が出来るまでの歩みや近隣の図書館を視察された報告がなされ、本市の図書館司書からは実際の図書館での司書の実践報告や図書館のあり方について語られました。その中で、図書館は、知る自由と学ぶ権利を保障する場であり、そのためにも地域とのつながりを深くし、そこには経験豊かな専門職員、司書とそれを主体的に支援する住民が必要なのだということが確認されました。

こうしたことと逆行すると思われる「指定管理者制度」や「一部業務委託」を名古屋市の図書館に導入させない取り組みを同会の皆さんはじめ、住民の皆さんと一緒に進めていくべきだと改めて確認させられる機会となりました。

市職労教事支部では、住民の皆さんと共に考えるシンポジウム等を開催するための準備委員会を、図書館組合員を中心に十月十日（月・祝）に行うこととしています。